

ウシオの今と未来をお伝えする

P  R  I  S  M

第45期報告書
(2007年4月1日～2008年3月31日)
2008年7月発行

USHIO

株主・投資家の皆さまへ

■光のものがたり

紫外線で、固める、くつつける

半導体、液晶、印刷…多彩な分野で活躍する「UVキュアリング」

■「光」テクノロジー&フロンティア

ウシオのUVキュア技術が

液晶製造工程のイノベーションを支える

ウシオ電機株式会社

PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。

第45期報告書

Contents

光のものがたり	1
光テクノロジー&フロンティア	3
こあいさつ	5
ウシオグループトピックス	7
事業別の概況	8
エレクトロニクス分野	8
映像・画像分野	9
OA分野	10
照明分野	11
社会とともに歩むウシオ	12
第45期の事業の概況	13
数字で見るウシオ	14
連結決算	15
株式の状況	17
会社概要	18

光のものがたり

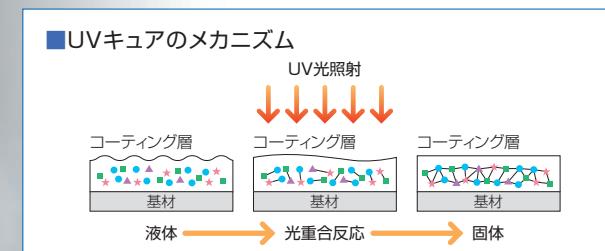
物干し竿につけたままの洗濯バサミが割れやすくなっていた…。庭に転がるゴムボールがパリパリに硬くなっていた…。そんな経験はありませんか？これは、日光に含まれる紫外線(UV)の作用によるもの。紫外線は化学反応を促すエネルギーを持っており、特殊な樹脂の組み合わせでインキや塗料の乾燥、精密部品の接着などに活用されています。こうした技術を、「光硬化」「UVキュアリング」と呼んでいます。

紫外線で、固める、くっつける。半導体、液晶、印刷…多彩な分野で活躍する「UVキュアリング」

なぜ、光で固まる？ くっつく？

物質は、酸素や水素、炭素、窒素といった原子がつながった「分子」でできています。紫外線には、このつながりを切り離す力があります。切り離された原子は、新しい相手(原子)を見つけてつなぎ直します。そうすると余った原子がまた別の原子とつながって、またさらに余った原子が…というように、ドミノ倒しのように原子の組み直しが進みます(この現象を光重合反応といいます)。その結果、プラスチックやゴムの分子構造が変化し、色や硬さなどの性質も変わってしまうのです。

この反応を積極的に活用したのが、紫外線と、紫外線を照射すると固まる樹脂(光硬化樹脂)を組み合わせて行う「光硬化」「UVキュアリング(UVキュア)」です。樹脂は、最初は液状または糊状ですが、紫外線を当てると光重合反応で瞬時に固体になるので、インキを乾燥させたり、部品同士を接着することができるのです。



1970年代に印刷分野から実用化

UVキュアは、印刷分野から実用化がはじまりました。「水と空気以外は印刷できないものはない」といわれるほど印刷技術は進歩していますが、金属やプラスチックに印刷する場合、インキが乾きにくいことが大きな課題でした。そのため熱によって乾燥を速めていましたが、1970年代に、光硬化樹脂を混ぜたインキに紫外線を当て、瞬時に乾燥させるUVキュア技術が確立されました。

UVキュアは、飲料缶やペットボトル、シール・ラベル、ICカード、ビジネスフォームなどの高速印刷に導入されています。また、自動車や電化製品、建材などの塗装・コーティングをはじめ、半導体の製造工程でも活用されています。

先端分野に欠かせないUVキュア

光硬化樹脂は、接着剤としても活躍しています。特に、精密加工が求められる電子部品や光学製品の生産では、なくてはならない技術となっています。

たとえば、液晶ディスプレイのガラスパネルの貼り合わせ、ネジ止めできないような微細な精密部品の接着などは得意分野。カメラのレンズ、CDやDVDの情報を読み取るピックアップレンズの接着、回路基板と電子部品の接着などに利用され、エンジン部品の接着などにも使われています。

このほか、UVキュアは、光ファイバーのコーティング、DVDなどの成型(型に樹脂を流し込み、硬化後にはがす)、光造形(3次元CAD図面をもとに光硬化樹脂で複雑な立体物をつくる技術)などにも応用され、ハイテク製品の小型・精密化で大きな貢献を果たしています。

UVキュアの5つの特色

- 1. 短時間で硬化・接着**
熱では何時間もかかった工程をわずか数秒に短縮。
- 2. 低温処理で素材のダメージが少ない**
熱に弱いプラスチック、ビニール、デリケートな電子部品にも適用可能。
- 3. 省スペース・省エネルギー**
ランプとミラーなどの光学系中心の装置なので、熱(火力など)のように大きな炉や設置が不要。スイッチひとつで必要なときに必要なだけのエネルギーが取り出せる。
- 4. 精密な加工**
光のコントロールで、きわめて小さいエリアの硬化・接着も得意。
- 5. 無公害**
有機溶剤を使わず、有毒ガスや水質汚濁の心配がない。

ウシオのUVキュア技術が 液晶製造工程のイノベーションを支える

ウシオグループは、1974年の紫外線瞬間乾燥装置「ユニキュアシステム」の発表以来、電子部品接着用「スポットキュア」や液晶パネル貼り合わせ用紫外線硬化装置など、UVキュア関連製品を次々と製品化してきました。今日では、半導体、フラットパネル、電子・光学部品、印刷、塗装などの幅広い分野にUV照射装置やUVランプを提供し、多くの製品がトップシェアを築いています。

多彩な分野に広がる「UVキュア」

1970年代は、エレクトロニクス製品や生産技術の飛躍的な進化など、日本がイノベーションをリードした時代でした。その中であって、ウシオの光テクノロジーが生まれたUVキュア製品も、きわめて大きい役割を果たしました。

ウシオのUVキュア装置・UVランプは、熱に弱いプラスチックやフィルムへの印刷物に始まり、今日では飲料缶の印刷やプラスチックや金属塗装など幅広い分野で活躍しています。エレクトロニクス分野でも、電子部品や液晶・半導体製造工程などに採用されています。

液晶の製造工程を変えた、ウシオのUVキュア技術

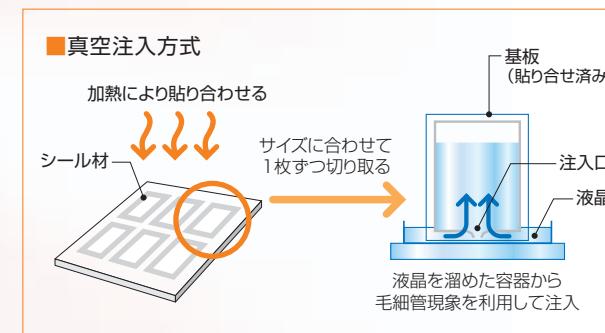
なかでも、液晶パネルを貼り合わせる紫外線硬化装置は、UVキュアの特徴を最大限に生かした技術です。

液晶パネルは2枚のガラスに液晶を封入したのですが、液晶はデリケートな化学素材なのでガラスを貼り合わせる接着剤を固めるのに熱が使えません。そこで、あらかじめガラスを接着しておき、すき間に液晶を注入する方法がとられてきました。しかし、液晶パネルのサイズが大きくなるにつれ、液晶を均一・短時間に注入するのが難しくなってきました。

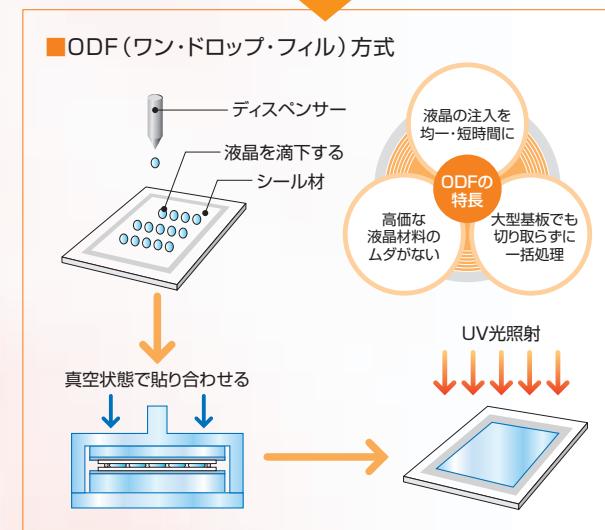
そこで、片側のガラスに液晶を均一に滴下したうえで、もう一枚のガラスを重ねて接着するODF（ワン・ドロップ・フィル）という画期的な方法が2000年頃から実用化されました。このODFを

実現した基盤技術が、短時間硬化、低温処理、精密接着を可能にしたウシオのUVキュア技術でした。

今日、ウシオの液晶パネル貼り合わせ用紫外線照射装置は、世界シェア70%の実績をあげています。



数十時間～1日の工程が、わずか数分に短縮！



ウシオの光テクノロジーでトータル提案

UVキュアにおけるウシオの強みは、これまでの経験とノウハウを活かした大出力ランプなどの「光源の開発力」とともに、光硬化樹脂の種類や目的、生産現場のラインに合わせた最適なランプ、ランプハウス、光学系、電源ユニット、フロアユニットなどをセットにした「トータルの提案力」にあります。

たとえば、半導体生産現場のクリーンルームでは、ランプの発熱によるほんの少しの気流の乱れが品質に関わります。それに対し低発熱のランプ、排熱性の高いランプハウスや光学系を自社開発して問題解決を図ってきました。

また、ウシオはUVキュアの草創期から光硬化樹脂メーカーとの共同研究を深め、あらゆる分野に装置・ランプを提供し、ユーザー企業のニーズを先取りする提案を行ってきました。その実績と信頼のもとに、ウシオでは、印刷技術や液晶や半導体のさらなる進化を支えるとともに、太陽電池などUVキュアの新用途開拓を積極的に進めていきます。

■ウシオのUV硬化・接着装置

	用途	製品
紫外線瞬間乾燥装置「ユニキュアシステム」	FPD、電子部品、印刷など。	
スポットUV照射装置「スポットキュアシリーズ」	レンズ、電子部品、光通信部品の接着、医療・研究など。	
フラッシュUV照射装置	記録メディア（DVD、ブルーレイディスク）の貼り合わせ・表面硬化、半導体テープの剥離、薄膜の硬化・改質・表面処理、各種接着・硬化など。	
紫外線ホトレジスト硬化装置「ユニハード」	LSIの製造、薄膜磁気ヘッドの絶縁膜形成など。	

UVキュアとランプ

UVキュアで使われるのは、高圧UVランプや金属ハライドランプなどの放電ランプです。

高圧UVランプは、短波長の紫外線のエネルギーが高いため、塗膜の薄いクリアーコーティングの分野でよく使われています。金属ハライドランプは、長波長の紫外線のエネルギーが高く、接着剤やインキ分野で広く用いられています。



高圧UVランプ



金属ハライドランプ



株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、日頃より格別のご支援ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。
第45期（2008年3月期）報告書「PRISM」をお届けするにあたり、当期の概況とともに、
2008年4月に発表いたしました「中期ビジョン」の重点事業戦略をはじめ、
今後の取り組みなどについて、ご報告申し上げます。

代表取締役社長・CEO 菅田 史朗

急激な円高ドル安が業績に影響

2008年3月期の経営環境を振り返りますと、前半は原油や素材価格が高騰しましたが、日本を含む世界経済は、ほぼ堅調に推移しました。しかし、2008年に入って急激に円高ドル安が進み、これが日本経済に大きな打撃となり、ウシオグループの業績にも影響を及ぼしました。

液晶業界では、在庫調整が一巡して生産が堅調に推移し、当社のリプレイスランプは順調に売上を伸ばしました。ただ、設備投資は本格回復に至らず、関連する光学装置は想定を上回るできませんでした。半導体業界は引き続き堅調で、当社グループの光学装置やランプは、着実に業績を伸ばしました。また、データプロジェクタ市場においては、需要が海外を中心に拡大し、高輝度・高付加価値化を推進してきた当社では、ACタイプ（交流方式）のランプでシェアを拡大することができました。

大型プロジェクタについては、ノンシネマ用途が好調でしたが、デジタルシネマ映写機は計画を下回る結果となりました。これは、北米での「デジタルシネマ普及促進プログラム」の第一フェーズ分の納入分が上期

で終了したものの、第二フェーズを含む次に続くプログラムのスタートが、米国経済の減速感もあって、2008年夏以降にずれこんだことによるのです。

一方、ここ数年来、事業効率の向上と競争力の強化に向けて、開発・生産・販売の再編を鋭意進めてきております。2008年3月期は、その仕上げとして、播磨事業所から海外を含む関係会社への製造移管、群馬ウシオの整理、システムカンパニー営業部の東京営業本部への移転、同製造・技術部門の御殿場事業所への集約などを実施し、新たな飛躍に向けた総合的な組織体制を固めました。

このように、新年からの円高ドル安の厳しい経営環境のなかで、着実に成果をあげてまいりました結果、2008年3月期は、連結売上高1,481億円（前期比2.2%減）、営業利益200億円（同1.6%増）、経常利益233億円（同7.3%減）、当期純利益154億円（同6.5%減）を計上いたしました。

なお、配当金は1株につき24円を維持し、今後も、株主の皆さまへの安定的利益還元を最重要課題とし、「配当性向20%」（連結ベース）の維持・向上を目標に取り組んでまいります。

●第46期の業績見通し（連結ベース）	売上高 1,520億円	営業利益 205億円	経常利益 245億円	当期純利益 160億円
--------------------	-------------	------------	------------	-------------

※上記の業績見通しは、今後の状況変化によって、数字が異なる場合があることをご了承願います。

2011年に向けた「中期ビジョン」

当社グループは、3カ年の「中期ビジョン」を策定し、每期、内容をローリングしながら新しい目標を掲げています。2008年4月に発表いたしました「中期ビジョン」では、最終年度（2011年3月期）に、営業利益285億円、ROE（株主資本利益率）10%以上、売上高1,900億円を目標としています。中期ビジョンの重点事業戦略は右枠の通りです。

特に、デジタルシネマプロジェクタのグローバル展開、環境と経営を両立するサステナブル経営、LEDやEUVなど最先端の光源開発、新規事業の開拓と既存製品の強化などに、一層の力を注いでまいります。これらの実現に向けて、第46期は、新製品や増産のための設備投資、デジタルシネマ普及促進に向けたクリスティ・デジタル・システムズのネットワーク・オペレーション・センターの移転・拡張などを計画しています。また、ウシオグループの強みが発揮できる事業領域を対象として、資本提携を含むM&Aや事業提携を今後も積極的に進めていく所存です。

デジタル産業を支える成長企業として

期が変わりましても、米国経済の動向、円高ドル安の進展、原油・原材料の高止まりなど、依然として不透明な要素があります。しかしながら、液晶業界での設備投資が年初から着実に復活傾向にあり、向こう1年は関連製品の好調な販売ができるものと期待しております。また、半導体業界での設備投資は、ややスローダウンしているものの、半導体デバイスの生産面では液晶パネル、半導体デバイスともに堅調な推移が見込まれ、当社のリプレイスランプにとっては、需要の追い風となることが期待されます。

ウシオグループは、これまでに確立した新しい開発・生産・販売体制のもとで、中期ビジョンに掲げた重点事業に注力するとともに、品質を重視しつつ、さらなる効率向上とコスト低減に取り組み、事業基盤の一層の強化に努めてまいります。

ウシオは、エレクトロニクス、とりわけデジタル産業を支える成長性のある企業グループです。今後も経営の透明性と効率性を高め、環境負荷の低減など、社会的責任も積極的に果たして、企業価値の増大と成長の継続を図っていきたくと考えております。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご理解とご支援を、心からお願い申し上げます。

2008年6月吉日

中期ビジョン

- ① デジタルシネマプロジェクタ（DCP）事業の多角的普及促進**
グループ会社のクリスティ・デジタル・システムズ（アメリカおよびカナダ）では、北米を中心に4,000スクリーンを超える映画館にDCPを設置しました。今後は、全世界に波及するデジタル化のトレンドを確実にとらえ、北米以外の地域でも普及を促進していきます。
- ② 環境・資源を念頭においた事業展開**
使用済みのランプを回収して材料を再利用したり、高効率な製品を開発して資源を有効利用することにより、環境と経営両方に有意義なサステナブル経営を目指します。
- ③ データプロジェクタ用ランプの高シェア堅持**
マーケットニーズに応える、新しい高付加価値製品を開発・提供し、シェアを堅持していくとともに、国内外での生産・販売ネットワークの拡大、生産性向上によるコストダウンを推し進め、収益性を向上させていきます。
- ④ LEDの事業展開**
2008年1月に、赤外線LEDメーカーの「エビテックス」がウシオグループに加わりました。今後は、グループの固体光源事業の発展に、大きく寄与することが期待されます。
- ⑤ 液晶・半導体・高精細プリント基板分野を支える製品の拡充**
先端事業の市場ニーズに応える新製品を他社に先駆けて開発し、新しい市場を開拓していきます。
- ⑥ 最先端露光事業（EUV）の開発強化**
グループ会社のエクストリーム（ドイツ）は、昨年、フィリップスEUV（オランダ）との業務提携を発表しました。また同じくグループ会社のギガフォトン（コマツとの合弁会社）でも、EUVの研究開発を行っており、関連するグループ各社が連携し、総力をあげて光源の量産化を目指します。
- ⑦ 新製品・新規分野の事業化と既存製品の強化**
多様化するマーケットニーズに対応した製品ラインアップの充実など、既存製品の競争力を強化していきます。また、光による皮膚治療器など、新規事業を本格的に拡大していきます。

※記載金額は億円未満を切り捨てて掲載しております。

水銀を使わない、新しい蛍光灯ランプ「XEFL®(ゼフル)」を発売

ウシオグループでは、水銀フリー（水銀を使わない）の希ガス蛍光灯ランプ「XEFL®(ゼフル)」を開発しました。XEFL®は、一般の蛍光灯とは異なり、ランプに水銀を使用していないことから、①時代にマッチした環境配慮型であるだけでなく、②照射物への紫外線ダメージがほとんどない。③ランプを垂直に使用しても色むらがない。④周辺温度の影響を受けにくく、低温の環境下や屋外でも使用できるなどのほか、外部電極構造であることから、⑤点滅による寿命への影響が少なく、長寿命を実現するなど、数々の大きな特長を有しています。

ウシオグループでは、このような利点を最大限に活用して、産業用、商業用、演出用などのほか、広告表示媒体「デジタルサイネージ」用大型モニターのバックライトとしても商品化を進め、新しい需要の掘り起こしをしています。



タテ型で利用できる「XEFL®」点灯時

半導体、太陽電池製造用に最適加熱の「マルチフィラメント・ヒータ®」

ウシオ電機は、半導体・太陽電池・FPDの成膜工程、熱処理工程において、基板面内を部分的に温度制御できるハロゲンヒータランプ「マルチフィラメント・ヒータ®」を開発、2008年7月より販売を開始します。

従来のハロゲンヒータによる加熱では、基板周辺部の温度の均一性を保つことが難しく、また、基板以外の領域も加熱してしまうことから、無駄な電力を消費していました。マルチフィラメント・ヒータ®は、必要なエリアに必要な光エネルギーを照射し、最適な温度状態に制御することができるほか、直管型ハロゲンヒータの利点である寿命・高効率・低消費電力といった長所も継承しています。



点灯時のマルチフィラメント・ヒータ®。中央部が低温部、両端が高温部。

赤外線LEDメーカー「エピテックス」がグループに

2008年1月、ウシオ電機とウシオライティングは、エピテックス株式会社(本社:京都府)の発行済株式55%を取得し、同社はウシオグループに加わりました。

エピテックスは、赤外線領域を中心に特色ある製品を有するLEDメーカーで、業界トップクラスの技術力を持っています。

ウシオでは、これまでもLEDに関する基礎研究を行ってきましたが、エピテックスの優れた技術を得たことにより、今後、生体認証・自動車関連・医療・産業用光センサなど、LED市場の有望分野への用途開拓に弾みがつき、早期の新事業展開に大きな期待を寄せています。

エレクトロニクス分野

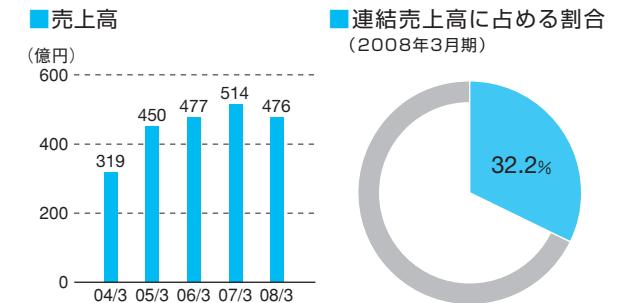
UVランプのリプレイス需要は、前年に続き、好調を維持

2008年3月期は、液晶パネルや半導体、電子部品などの製造プロセスで使用されるUVランプのリプレイス需要が伸長しました。これは、液晶パネルの生産増に加え、半導体や電子部品市場が堅調に推移したことによるものです。しかしながら、液晶関連の設備投資が一時的に停滞し、これにより、光学装置製品は、前年度実績を下回りました。

また、グループ企業ギガフォンの半導体露光用エキシマレーザは、フラッシュメモリの増産投資にタイムリーに対応することによって、大きく需要を拡大、世界シェアは40%を超えました。

2009年3月期は、景気変動など不透明な要素はあるものの、前年度後半から液晶関連の投資が活発化しており、これによって液晶業界を中心に、リプレイス用UVランプ、光学装置関連製品ともに需要が増加するものと期待しています。

また、次世代半導体露光用の新光源として、注目を集めているEUV光源については、開発を担うドイツのグループ企業エクストリームが、2007年11月に、フィリップスEUV社と業務提携を結び、2008年2月には、量産に必要とされる出力500Wを上回る成果を実証するなど、世界初の実用化をめざして着実に開発を進めています。



リンググラフィ用UVランプ



液晶パネル貼り合わせ用紫外線照射装置

主なグループ会社

ギガフォトン株式会社



エキシマレーザGT62A

新製品開発と米国法人設立 -ギガフォトン株式会社-



ギガフォトンUSA

ギガフォトン*1は、2008年2月に高出力・高稼働率を実現したArFエキシマレーザの最新モデルの出荷を開始、加工線幅45nm**2、32nmといった最先端半導体の生産性向上に寄与します。

また、2008年1月に100%出資の米国法人ギガフォトンUSA社を設立。全米3カ所の拠点を軸に顧客サポートの強化と新規ユーザーの開拓を目指しています。

*1 コマツとのジョイントベンチャー。当社持株比率50%
*2 ナノメートル 10億分の1メートル。

映像・画像分野

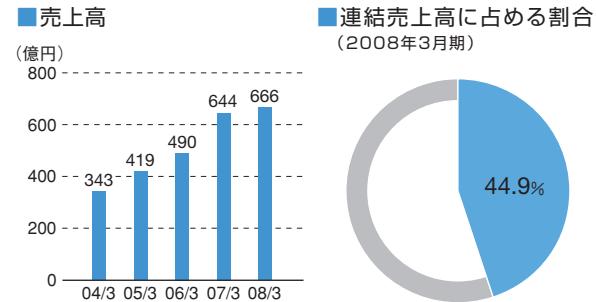
ノンシネマ用プロジェクタ、データプロジェクタ用ランプが牽引

当期(2008年3月期)の映像用プロジェクタは、シネマ市場では、アメリカの配信会社アクセスITによる「デジタルシネマ普及促進プログラム」の第1フェーズが10月で完了し、これによって当プログラムによるデジタルシネマ映写機(DCP)の累計出荷数は約3,700台になりました。しかし、続く第2フェーズのスタートが、米国の景気減速の懸念もあって2008年度以降にずれ込み、これによって通期の販売台数は前年を下回りました。

一方、ノンシネマ市場では、大型映像用プロジェクタが好調に需要を拡大するとともに、コントロールルームや各種のシミュレータなどの産業用途でも、大きく売上を伸ばしました。

また、データプロジェクタ用ランプは、高輝度・高付加価値のACタイプ(交流点灯方式)が高く評価され、好調に需要を拡大し、世界シェアを約25%に高めました。

今期(2009年3月期)は、DCP事業で新しい大型の「デジタルシネマ普及促進プログラム」のスタートが予想される一方、北米以外の日本・アジア・欧州などでDCPの市場開拓を進めると同時に、小型新機種を加えた製品ラインナップによって市場のニーズに応え、需要の拡大を図っていきます。また、ノンシネマでは、3次元映像用プロジェクタなどの産業用途の拡大、データプロジェクタ用ランプでは、中国への生産移管による収益性の確保などに重点を置き、事業を展開していきます。



デジタルシネマ映写機 [CP2000]



データプロジェクタ用高輝度放電ランプ

AT&Tの巨大スクリーンを再受注 —クリスティ・デジタル・システムズ—



AT&Tネットワーク・オペレーション・センター

米国のグループ企業クリスティ・デジタル・システムズ(CDS)は、2007年秋に、世界最大のテレコム企業AT&Tのグローバル・ネットワーク・オペレーションセンターの監視ディスプレイウォール(高さ3.7m×幅76.2m)を受注しました。前回(1999年)に続いて今回もCDS製が選定された理由は、システムの高性能に加え、きめ細かなメンテナンスサービスなど、CDSの高い信頼性によるものです。7年ぶりに刷新されたシステムは、アップグレードされた141台のリアプロジェクトで構成されており、そのトータル・ソリューション・システムによって、全米8,000万人の顧客サポートに貢献しています。

主なグループ会社

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS,USA,INC.
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS,CANADA,INC.
株式会社ジーベックス
クリスティ・デジタル・システムズ日本支社

OA分野

環境配慮型製品が新しいニーズ

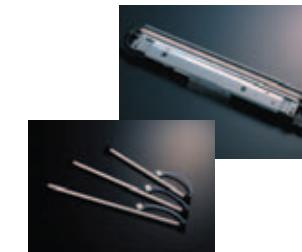
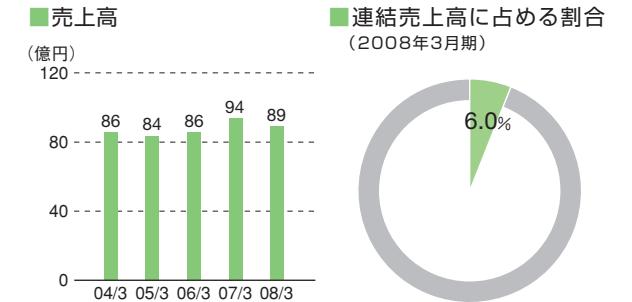
ウシオグループは、プリンタ・複写機・レーザープリンタ・ファクシミリなど、さまざまなOA機器に内蔵される光源を幅広く供給しています。

当期(2008年3月期)は、円高やアメリカ景気後退の影響を受け、苦戦をしましたが、多機能型カラープリンタ、カラー複写機が普及し、これらに対応した高効率ランプの需要は、確実に増加しています。

昨今のOA機器に求められる開発テーマは「省エネルギー」です。ウシオグループでは、ランプの省電力化とともに、待機状態からの立ち上がりを早めるクイックレスポンスなど、ランプの省エネ課題に積極的に取り組んできました。こうしたきめ細かな開発が高く評価され、読み取り用ランプは、大手OA機器メーカー全社に納入されており、世界シェアで約65%を確保しています。

競争力を高めるための生産効率の向上とコストダウンでは、中国やフィリピンへの生産移管を推進し、当期で目標とするすべての移管が完了、収益面で大きく寄与しています。

今後も「省エネ」、「環境」をキーワードとした高付加価値商品の開発を促進させ、更なるシェアの拡大を図ります。

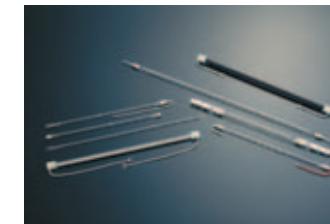


コピー機用希ガス蛍光ランプとランプユニット



トナー定着用ハロゲンランプ

トナー定着用高効率ランプが好調 —熱効率を15%向上—



ハロゲンヒータランプ

2007年に、従来品に比べて熱効率を15%向上させたトナー定着用ハロゲンランプを開発し、複写機の省エネ化を進めるOA機器メーカー各社から高く評価され、実績を伸ばしています。熱効率の向上により、ローラーの表面温度が適温に達する時間が早まり、待機時間の短縮につながっています。

主なグループ会社

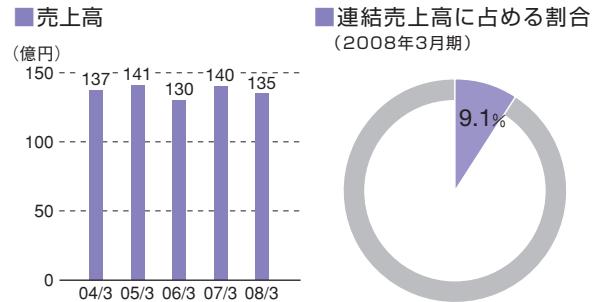
USHIO HONGKONG LTD.
USHIO (SUZHOU) CO., LTD

照明分野

高付加価値製品で差別化

ウシオグループは、コンサートやイベントなどの照明システムのほか、商業施設、自動車、宇宙・航空など、各種の照明用光源を提供しています。近年では特に注目を集める環境配慮型の省電力ランプをはじめ、照明デザイナーや建築家が求めるデザイン性や機能性にも注力し、高付加価値光源、映像照明機器などの拡販を行なっています。

今後は、高輝度プロジェクタと高性能ムービングライトを一体化した次世代型デジタルライティングシステムやLED投光器など、より付加価値の高い新製品やサービスを商品化し、照明市場でUSHIOブランドの浸透を図っていきます。



クリアカット型ハロゲンランプ「MRX-JR」



照明効果を発揮するイベント

主なグループ会社

ウシオライティング株式会社
株式会社ウシオスペース

ロングスロームービングライト「SHOWGUN」 -ウシオライティング株式会社-



SHOWGUN

ウシオライティングは、日本代理店として米国のハイエンドシステムズ社の2000Wロングスロームービングライト「SHOWGUN」を2007年7月から国内販売しています。「SHOWGUN」は業界で初めてムービングライトによる2000Wロングスローを実現。これまで難しいとされてきた遠方へのカラー照射、パターン照射を、これまで以上の精細さで提供できるため、多彩な演出照明が可能です。

78位から21位へ、大きく躍進

日本経済新聞社が行う「第11回環境経営度調査」*で、ウシオ電機は前年の78位から大きく順位を上げ、2007年度は21位にランクされました。

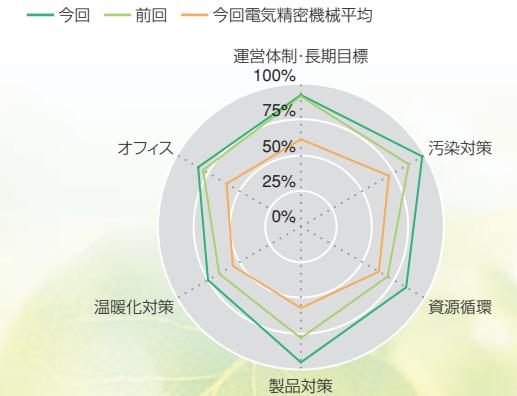
ウシオの活動は、6つの評価項目(運営体制・長期目標、汚染対策、資源循環、製品対策、温暖化対策、オフィス)すべてで前回項目を上回り、「汚染対策」では非常に高い評価を獲得しました。

今後も、よりランクアップをめざして活動を推進していきます。

*「環境経営度調査」…企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、日本経済新聞社が1997年から毎年1回実施している調査で、企業が温暖化ガスや廃棄物の低減などの環境対策と経営効率の向上を、いかに両立しているか評価し、そのランキングを発表している。

～2007年度日経環境経営度ランキング～

今回のポイントと前回比較



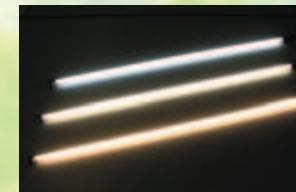
環境配慮型製品、続々市場へ

ウシオの重要テーマである「光と環境の調和」「光の質」にこだわった研究開発と、最新技術が融合した高付加価値製品が続々と誕生しています。

「XEFL®」がJAPAN SHOP SYSTEM AWARDS 2008*を受賞

ウシオ独自の光技術を基盤に、電極構造、発光管製造、クセノンガス注入技術を駆使して、開発された希ガス蛍光灯「XEFL®」は、紫外線放出をほぼゼロにし、照度安定など高品質の光を実現した環境配慮型製品として注目されています。

* (財)店舗システム協会による、「小売業を通じて社会に役立つテクノロジー・ソリューション」への表彰制度



「XEFL®」点灯時

集光効率アップで省電力、ミラー付きハロゲンランプ

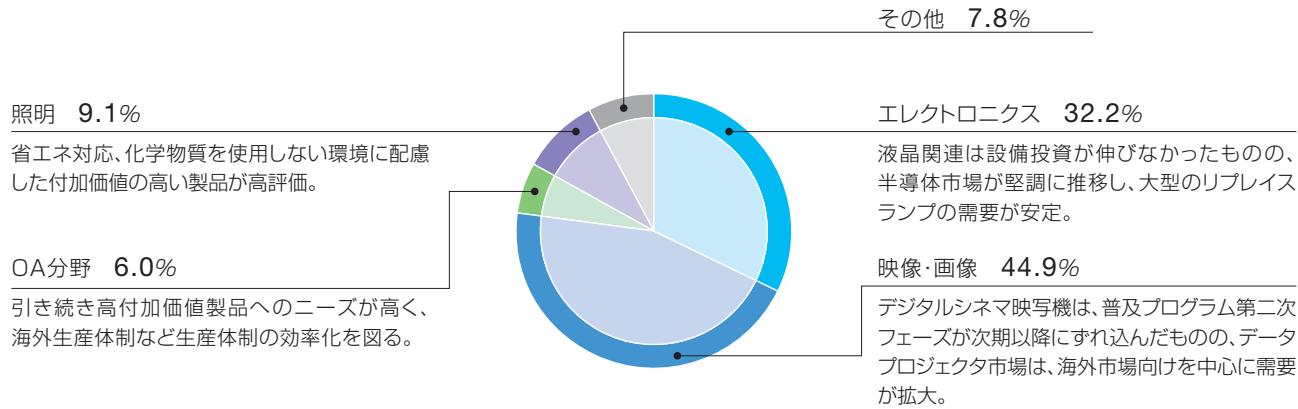
店舗などで展示された商品を美しく見せるハロゲンランプには、地球環境問題に対する意識の高まりから、効率アップ、省エネ、コストパフォーマンスの向上が、求められています。

ウシオライティングの新製品、ミラー付きハロゲンランプ「ダイクロハロゲン「ADVANCE」」シリーズは、独自の光学設計と、ミラーフィラメント開発技術を駆使し、光のムダな拡散を可能な限り抑え、光の発光利用効率を最大限に高めることで、当社従来品に比べ約25%の省電力を実現しました。さらに製品サイズを約10%小型化し、配光を最適化させることで輪郭の美しいグラデーション配光に仕上がっています。



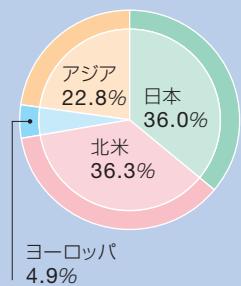
ダイクロハロゲン「ADVANCE」

●市場分野別売上高構成比



所在地別の業績

所在地別売上高構成比



日本

液晶および半導体分野における露光用紫外線ランプのリプレイス需要が堅調に推移。一方、液晶市場における新規設備投資が本格的な回復には至らず、液晶製造関連装置の売上は減少し、売上高は対前期比8.1%減の753億6千9百万円を計上しました。

北米

映像・画像事業において、シネマ以外の映像機器の販売が堅調に推移したものの、デジタルシネマ映写機の新しい普及プログラムの開始が遅延し、売上高は、対前期比1.2%減の548億6千1百万円を計上しました。

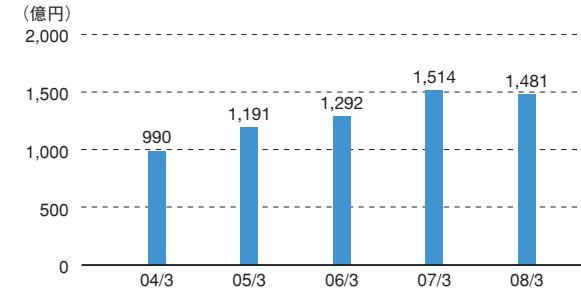
ヨーロッパ

一般照明用ランプ、シネマ映写機用クセノンランプなどの需要が堅調に推移し、売上高は、対前期比4.2%増の79億4千9百万円を計上しました。

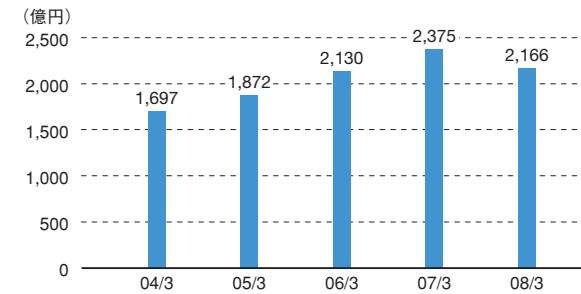
アジア

データプロジェクタ用高輝度放電ランプの需要が増加、OA機器用希ガス蛍光ランプや液晶・半導体露光用紫外線ランプの需要が堅調に推移し、売上高は、対前期比10.7%増の362億5千万円を計上しました。

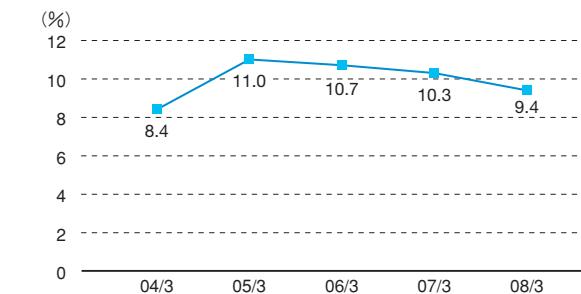
●連結売上高



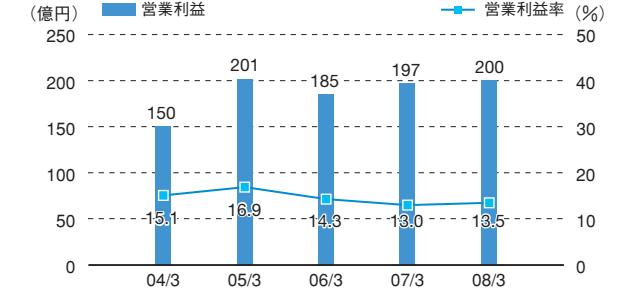
●連結総資産



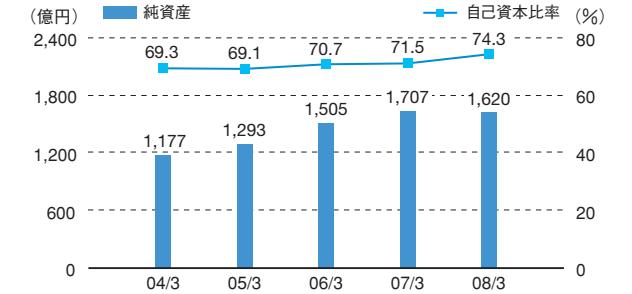
●連結自己資本利益率 (ROE)



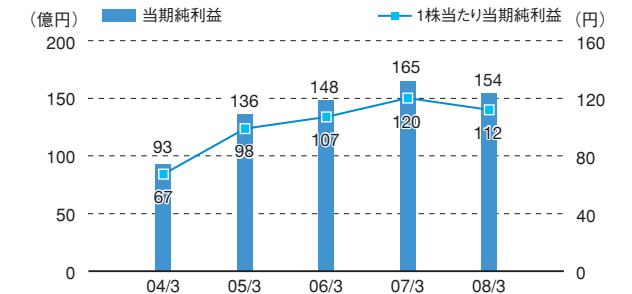
●連結営業利益／営業利益率



●連結純資産／自己資本比率



●連結当期純利益／1株当たり当期純利益



※記載金額はすべて表示数値未満の位を切り捨てて表示しております。

●貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

科目	第45期 (2008.3.31現在)	第44期 (2007.3.31現在)	科目	第45期 (2008.3.31現在)	第44期 (2007.3.31現在)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	111,914	118,220	流動負債	38,159	45,076
現金および預金	31,412	29,195	支払手形および買掛金	15,214	21,220
受取手形および売掛金	37,074	42,900	短期借入金	8,672	6,865
有価証券	2,587	6,567	その他	14,273	16,990
たな卸資産	29,951	29,469	固定負債	16,407	21,706
その他	10,890	10,088	長期借入金	2,962	—
固定資産	104,744	119,299	繰延税金負債	10,146	19,496
有形固定資産	38,227	36,142	その他	3,299	2,209
建物および構築物	18,334	14,782	負債合計	54,567	66,782
機械装置および運搬具	6,253	5,983	(純資産の部)		
土地	8,849	8,805	株主資本	148,122	138,084
その他	4,791	6,570	資本金	19,556	19,556
無形固定資産	2,994	2,142	資本剰余金	28,371	28,371
投資その他の資産	63,522	81,015	利益剰余金	105,323	93,141
投資有価証券	59,521	78,479	自己株式	△5,127	△2,984
その他	4,001	2,535	評価・換算差額	12,837	31,761
資産合計	216,659	237,520	その他有価証券評価差額金	17,150	30,594
			繰延ヘッジ損益	—	42
			為替換算調整勘定	△4,313	1,124
			少数株主持分	1,132	891
			純資産合計	162,092	170,738
			負債および純資産合計	216,659	237,520

●損益計算書(連結)

(単位:百万円)

科目	第45期 (2007.4.1~2008.3.31)	第44期 (2006.4.1~2007.3.31)
売上高	148,148	151,495
売上原価	98,020	103,848
売上総利益	50,217	47,647
販売費および一般管理費	30,076	27,919
営業利益	20,050	19,727
営業外収益	5,835	6,510
営業外費用	2,566	1,092
経常利益	23,319	25,145
特別利益	0	246
特別損失	1,783	218
税金等調整前当期純利益	21,535	25,174
法人税等	5,889	8,430
少数株主利益	160	190
当期純利益	15,486	16,553

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

科目	第45期 (2007.4.1~2008.3.31)	第44期 (2006.4.1~2007.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,237	20,071
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,041	△7,227
財務活動によるキャッシュ・フロー	△85	△10,625
現金および現金同等物に係る換算差額	△2,532	202
現金および現金同等物の増加額(又は減少額)	2,578	2,421
現金および現金同等物の期首残高	25,122	22,701
現金および現金同等物の期末残高	27,700	25,122

●株主資本等変動計算書(連結)

(単位:百万円)

第45期 (2007.4.1~2008.3.31)	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007.3.31 残高	19,556	28,371	93,141	△2,984	138,084	30,594	42	1,124	31,761	891	170,738
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△3,304		△3,304						△3,304
当期純利益			15,486		15,486						15,486
自己株式の取得				△2,143	△2,143						△2,143
株主資本以外の項目の 連結会計期間中の変動額(純額)						△13,443	△42	△5,437	△18,924	240	△18,684
連結会計年度中の変動額合計	—	—	12,181	△2,143	10,038	△13,443	△42	△5,437	△18,924	240	△8,646
2008.3.31 残高	19,556	28,371	105,323	△5,127	148,122	17,150	—	△4,313	12,837	1,132	162,092

(単位:百万円)

第44期 (2006.4.1~2007.3.31)	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2006.3.31 残高	19,556	28,371	79,350	△1,895	125,382	24,611	—	539	25,151	740	151,274
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当(注)			△2,762		△2,762						△2,762
当期純利益			16,553		16,553						16,553
自己株式の取得				△1,088	△1,088						△1,088
株主資本以外の項目の 連結会計期間中の変動額(純額)						5,982	42	585	6,610	151	6,762
連結会計年度中の変動額合計	—	—	13,790	△1,088	12,701	5,982	42	585	6,610	151	19,464
2007.3.31 残高	19,556	28,371	93,141	△2,984	138,084	30,594	42	1,124	31,761	891	170,738

(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

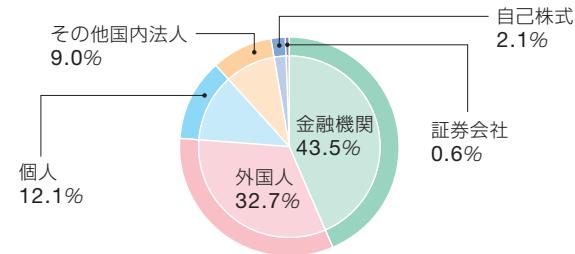
発行済株式総数…………… 139,628,721株
株主数…………… 14,657名

●大株主の状況 (200万株以上)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,248	9.48
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,820	4.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,399	4.58
オーエム04 エスエスピークライアント オムニバス	4,489	3.21
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	4,244	3.04
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83
株式会社りそな銀行	3,616	2.58
牛尾治朗	3,201	2.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (りそな信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	3,200	2.29
指定単受託者中央三井アセット信託銀行株式会社1口	2,440	1.74
財団法人ウシオ育英文化財団	2,400	1.71
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)サブアカウント アメリカンクライアント	2,356	1.68

※上記のほか、当社が所有している自己株式2,963千株があります。
※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。
また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

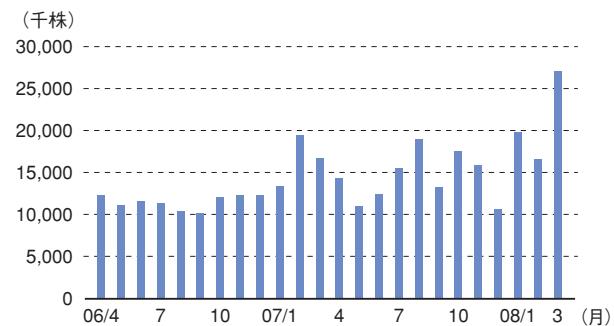
●株式の分布状況



●株価の動き



●株式売買高



設立/1964年3月
資本金/19,556,326,316円

●役員 (2008年6月26日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
取締役副会長	田中 昭洋
代表取締役社長	菅田 史朗
取締役	後藤 学
取締役	大島 誠司
取締役	多木 正
取締役	牛尾 志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野 裕明
常勤監査役	四分一 直
常勤監査役	中一 進
常勤監査役(社外)	物江 理
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	麻生 紘二

●従業員数 (2008年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,681名
国内グループ計	528名
海外グループ計	2,472名
合計	4,681名

●事業所一覧 (2008年3月31日現在)

ウシオ電機株式会社	国内グループ会社
本社 東京都千代田区	ウシオライティング株式会社
播磨事業所 兵庫県姫路市	兵庫ウシオライティング株式会社
横浜事業所 神奈川県横浜市	筑波ウシオ電機株式会社
御殿場事業所 静岡県御殿場市	株式会社ジーベックス
東京営業本部 東京都千代田区	株式会社ウシオスペックス
大阪支店 大阪府大阪市	ギガフオン株式会社
	日本電子技術株式会社
	他6社

海外グループ会社

- 開発・製造**
- <北米>
 - CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.
 - <欧州>
 - BLV LICHT-UND VAKUUMTECHNIK GmbH
 - XTREME technologies GmbH
 - <アジア>
 - USHIO PHILIPPINES, INC.
 - USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
 - TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.
- 販売**
- <北米>
 - USHIO AMERICA, INC.
 - USHIO CANADA, INC.
 - CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
 - <欧州>
 - USHIO EUROPE B.V.
 - USHIO U.K., LTD.
 - USHIO DEUTSCHLAND GmbH
 - USHIO FRANCE S.A.R.L.
 - <アジア>
 - USHIO KOREA, INC.
 - USHIO TAIWAN, INC.
 - USHIO HONG KONG LTD.
 - USHIO SINGAPORE PTE LTD.
 - USHIO LIGHTING (HONG KONG) CO.,LTD.
 - USHIO SHANGHAI, INC.
- 他12社

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
	その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領 株主確定日	3月31日 なお、中間配当制度は採用しておりません。
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社
1単元の株式数	100株
株式銘柄コード	6925

● お問い合わせ先 ●

〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
TEL.0120-78-2031 (フリーダイヤル)

※住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

● フリーダイヤル

0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)

● ホームページ

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。

<http://www.ushio.co.jp>

発行:ウシオ電機株式会社 広報IR室

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

TEL.03-3242-1815 FAX.03-3245-0589



この印刷物は、環境に優しい再生紙と、大豆インキを使用しています。